



(参考仮訳)

プレスリリース No. 12/130
即時解禁
2012年4月12日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事、 世界的にリスクは残存しており、さらなる措置が不可欠と指摘

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は本日、世界経済の見通しは最近改善したものの、依然として脆弱な回復を支えるために更なる措置が必要だと述べた。

「経済情勢は若干改善している。しかし、リスクは依然として高く、状況は脆弱であることを強調しなければならない」

ラガルド専務理事は、政策担当者に対し「危機を寄せつけることなく過去の物とするために、確実に必要な対策を推し進める機会」を捉えるよう求めた。

欧州や他の地域でとられた政策措置は、脆弱性の緩和に寄与した。同氏は、ワシントン DC のブルッキングス研究所で行った演説のなかで、「欧州諸国が講じた最近の措置は、政策をめぐる決意と行動の力をタイムリーに改めて示した」と述べると共に、懸命な取り組みにより「熟考を重ね未だに残る課題に積極的に取り組む時間を、僅かだが得ることができた」と述べた。

政府および金融のストレスによるリスクを踏まえ、欧州の政策担当者は、国レベルでの強力な政策や、欧州中央銀行による支援、銀行システムの修復、および財政の統合などを通し、その取り組みを「継続しかつ活かす」必要があると述べた。「欧州の金融の防火壁を強化する、我々が待望していたユーロ圏の閣僚の決断も重要となっている」

しかし一方で同氏は、今日の相互に関連した世界経済では、欧州の防火壁の強化は、問題解決の一部を成すのみだと指摘した。世界規模の防火壁の強化が、危機の影響を即座に受けない国々も含めた全ての国のための「防御の輪」を完成する上で有益となる。

IMFと世界銀行の春季会合を一週間後に控え演説を行った同氏は、世界規模の防火壁の強化策の一環として、IMF財源の強化の必要性を訴えた。「可能な限り効果的であるためには、我々の財源を増強する必要がある」。IMFは、経済環境の動向や欧州のものも含めた政策措置全般を勘案し、継続的にグローバルリスクの再評価を進めている。ラガルド氏は「今年はじめの我々の試算ほどの増強は必要ないと思われる。しかし、間違えてはならない。リスクやニーズは依然として大きい」と指摘した。また、「多数の加盟国がIMFの財源を増強する支援を表明したことに勇気づけられた」と述べた。

さらに同氏は、危機の人々への負の影響の面からも、政策改革をめぐる更なる措置が不可欠であると述べた。専務理事に就任してから9カ月の間で、加盟国を訪問してきた同氏は、経済の不安定性と失業の代償を目撃してきた。「人々が経験する苦しみと尊厳の損失、そしてその経済的損失を見てきた。こうした状況は、どの国においても同じだ」

更なる需要を生みだし「成長が引き続き弱いところへの支援を、政策の当面の焦点としなければならない」。この点に関し、金融政策により「インフレが引き続き抑制されているところでは、成長を支えることも可能だ」と述べた。

財政面に関しては、多くの国において「財政の健全性の回復」が不可欠だと述べた。「調整のペースが重要であり」、「各国の状況に合わせ調整しなければならない」。

さらに、政策担当者に対し、成長と安定性のより堅牢な長期的基盤を築くための機会を捉えるよう強く求めた。適切な改革を行なうことで、世界はより包括的かつ持続的な新たな成長を活かすことができよう。また同氏は、競争力の回復および労働市場の機能の向上において、金融部門改革の一層の推進が不可欠だと強調した。これらの改革の多くが困難を伴うことから「適切なセーフティネットを保護しかつ強化する」よう求めた。

演説を締めくくるにあたりラガルド氏は「協調的なアプローチを取ることで、成功を手にするチャンスが増す」と強調した。187加盟国を有するIMFは「協調により何を得ることができるか」を理解していると述べると共に、IMFのガバナンス構造が加盟国を十全に反映したものでなければならず、そのために「全ての加盟国が、2010年のクォータおよびボイスの改革を、時宜にかなった方法で完了」するよう求めた。